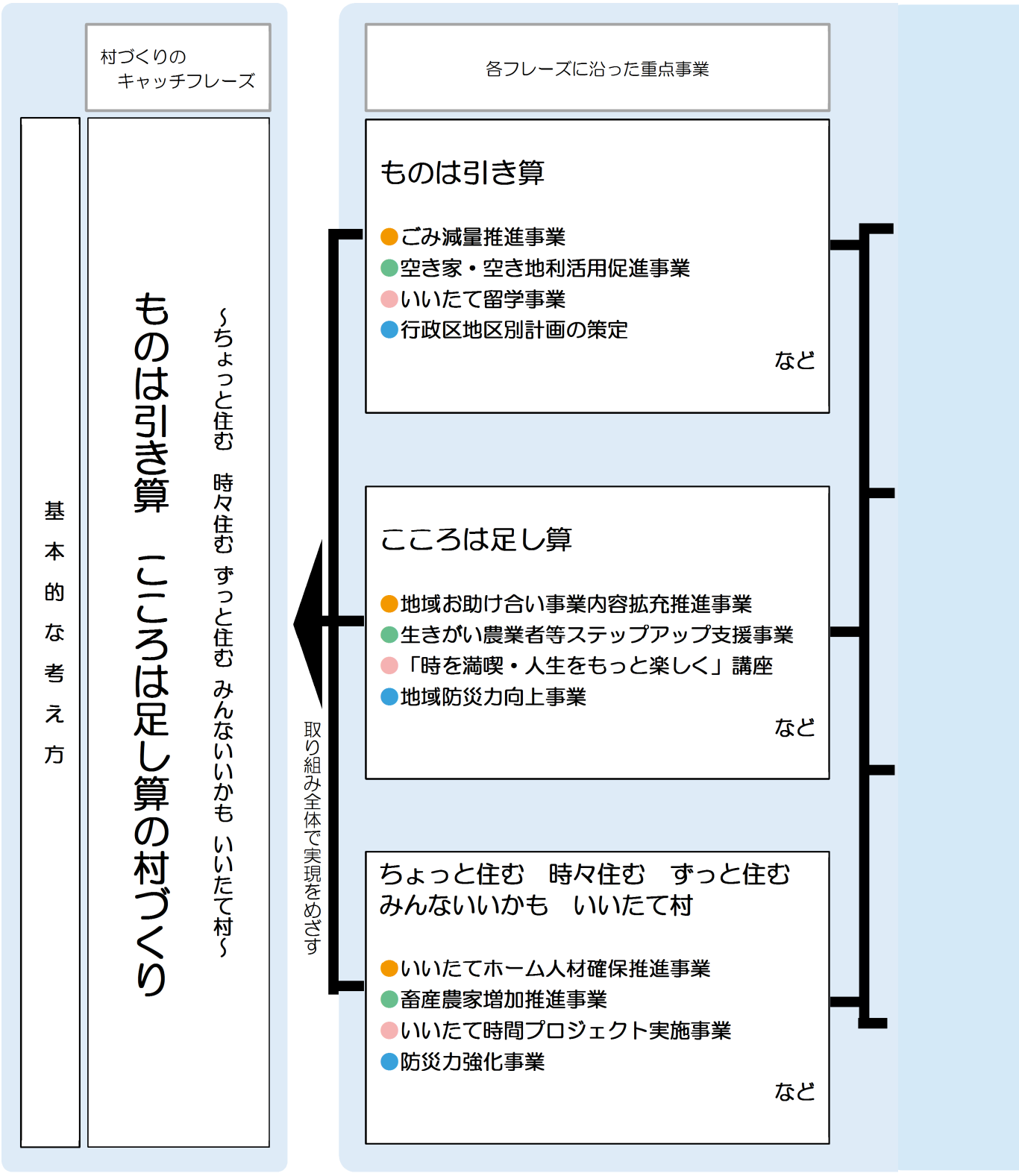
基本計画

１－１　計画体系図



【重点事業種別】●健康・福祉・環境分野　●産業・観光・移住分野
●教育・文化分野　●防災・建設・行財政分野

12 分野のめざす姿

健康 福祉 環境

ゆったり流れる時間の中で「元気かい？」から始まる心地いい関係のある村へ

- 健康分野：食べて笑って楽しい健康づくり
- 福祉分野：「出番」を作るしかけづくり
- 環境分野：未来や心にやさしい環境づくり

産業 観光 移住

どこに暮らしていても参加して楽しい 新しい豊かさを感じる村へ

- 産業分野：一人ひとりの関わり合いで 力を合わせ拡大させる までいブランド
- 観光分野：資源にひと手間加えて築く 観光以上移住未満の関係
- 移住分野：モノや心を分かち合い ふんわりやっこく迎える村

教育 文化

いいたてに生きる精神文化を紡ぎ、自らに誇りをもつ村へ

- 学校教育分野：竹のようにしなやかに、石のようにどっしりと、自らに誇りを持つ教育
- 社会教育分野：ふるさとをみつめ、ふるさとに学び、ふるさとと歩む教育
- 文化分野：いいたてを語り、いいたてを喰（は）み、いいたてと過ごす文化

防災 建設 行財政

足もとからの将来づくりを「支え合い」で進める村へ

- 防災分野：自分たちの安全は自分たちで守る強靭な地域防災
- 建設分野：助け合いで築く誰もが安心できる暮らし
- 行財政分野：連携して課題に立ち向かえる自立した地域

1－2　各分野のめざす姿

健康
福祉
環境

ゆったり流れる時間の中で
「元気かい？」から始まる　心地いい関係のある村へ

温かな声がけから始める交流を通じて、生きがいを持って健やかに暮らすことのできる村を目指します。

健康	現況	健康によい昔ながらの料理を食べる、村民同士で集まる、農作業や孫の世話で体を動かす等の機会が大きく減っています。
	めざす姿	**食べて笑って楽しい健康づくり** 誰もが参加できる食べて笑って楽しく健康づくりができる機会を創出し、健康によい作物や食べ方を推進し、郷土食の継承と村民の健康維持・向上を進めます。

福祉	現況	村内で暮らす方が少なくなり、高齢化が進んだ今だからこそ、お互いさまの気持ちで支え合う暮らし方や生活の知恵の伝承が大切です。
	めざす姿	**「出番」を作るしかけづくり** 高齢でも健康な方が、近所の方の送迎をしたり、子どもたちに郷土食を学び伝える役割を担ったり、できる人ができる時にできることを助け合う「出番づくり」で、支え合いの村づくりを進めます。

環境	現況	地球規模の環境問題への対応として、かつてのような循環型の村づくりを目指していくことが必要です。
	めざす姿	**未来や心にやさしい環境づくり** 環境問題への対応は、未来の誰かを思いやる心の交流でもあります。村が 100 年後も持続可能な村であるために、他の誰かを思いやる心を育て、暮らしの中の様々な場面での気遣いを増やし、環境負荷の軽減を行うことで、未来や心にやさしい環境づくりを進めます。

産業
観光
移住

どこに暮らしていても参加して楽しい
新しい豊かさを感じる村へ

村に想いを寄せる方々との新しい関わり合いや村民の新しい暮らしを尊重し、新しい豊かさを感じる産業を作り出す村を目指します。

産業

現況

農業者や商工業者は再開にあたって「人手が足りない」「相談できる相手がいない」という声がある一方で、「農家を手伝いたくても情報がない」「相談してもらえればアドバイスできるのに」という声もあります。

めざす姿

一人ひとりの関わり合いで　力を合わせ拡大させる　までいブランド

村ではこれまで「農」の再生へ向けて「生きがい農業」や「なりわい農業」など農家の希望に応じた農業プランを展開してきました。また、新たな法人の立ち上げや、起業の動きが少しずつ進んでいます。今後も一人ひとりの活躍の場を広げ、までいブランドの拡大を図ります。

観光

現況

花・神社・公園・湖・豊かな田園風景、地元のおいしい野菜や料理、新しいお菓子、そして村が積み重ねてきた震災に関する貴重な学び。村を学び、観光し、村を気に入ってくれる方も多いですが、情報発信は工夫の余地がありそうです。

めざす姿

資源にひと手間加えて築く　観光以上移住未満の関係

農村風景や季節ごとに感じる草花などの自然の匂い、星空などの観光資源を活かし、村でしかできない体験やモノにひと手間加え、情報発信を充実することで、心のふるさとになるような観光客より深い関係性づくりを目指します。

移住

現況

震災後、100 人程の新しい村民が定住していますが、以前から住んでいた村民と交流する機会が少なく、交流したくてもできないという方がたくさんいます。

めざす姿

モノや心を分かち合い　ふんわりやっこく迎える村

これまでに整備された施設や空き家などの既存資源の活用、村民の活躍に加え、村に想いを寄せる方の協力など新たな風も取り入れていくことが重要です。様々な方が互いに関わり合い、“ふんわりやっこく迎える”関係を構築していきます。

教育
文化

いいたてに生きる精神文化を紡ぎ、自らに誇りをもつ村へ

ふるさとを改めて見つめ直す教育を通じて、子どもも大人もともにいいたての文化を取り戻し、自らに誇りをもつ村を目指します。

学校教育	現況	村の子ども達は、かつての村の姿や暮らしを実際に見ることが叶わず、今の村の現状も歩いて見て回るという機会が多いとは言えません。村の歴史と今を楽しくもっとたくさん学べる学校が期待されています。
	めざす姿	**竹のようにしなやかに、石のようにどっしりと、自らに誇りをもつ教育** 義務教育学校がスタートし、学年や学校の区切りに捉われない、長期的な視野で一人ひとりの子どもと向き合う教育が可能となります。この利点を活かして個性と生きる力を育み、地域の大人と協力しながら、ふるさとの誇りを抱ける教育を進めます。
社会教育	現況	村民同士の交流の機会が減少し、村の活動に参加する機会も減ってきています。子どものことや楽しいことを通じて、それぞれができる形で、ふるさとと自分のつながりを取り戻せる社会教育が必要です。
	めざす姿	**ふるさとをみつめ、ふるさとに学び、ふるさとと歩む教育** 子どもだけでなく、大人も、もう一度村と関わりを深め、「やっぱり飯舘がいいね」と、ふるさとの誇りを持てる「学び合い」を目指します。暮らしの技術や村の自然を活かしたプログラムなどを通じ、様々な関係性でふるさととつながる仕組みをつくります。
文化	現況	これまで当たり前とされていた村特有の文化が継承されにくくなっています。風土と暮らしの知恵の結晶である食文化や、代々受け継がれてきた地域の伝統芸能や伝承・物語を受け継ぎ、楽しめる村が必要です。
	めざす姿	**いいたてを語り、いいたてを喰（は）み、いいたてと過ごす文化** 暮らしの知恵や風習も含めて文化であり、村を離れたとしても人によって継承されていく文化もあります。共同体のルーツであるいいたての物語・食・芸能を尋ね、新しい価値を加えながらふるさとの文化を継承することを目指します。

防災
建設
行財政

足もとからの将来づくりを「支え合い」で進める村へ

これまで村を支えてきた行政区の活動など、足もとの生活基盤やつながりを再び強め、支え合いで進める村を目指します。

防災	現況	震災を経験し、最近では令和元年の台風 19 号もあり、地域ごとの防災の必要性が認識されるようになりましたが、地区防災組織は人口減少、高齢化等により維持がむずかしくなっています。
	めざす姿	**自分たちの安全は自分たちで守る強靭な地域防災** 安全で安心して暮らせる村を目指し、地域ごとのハザードマップ作成などを通じて、協力体制を再構築するとともに、防災への意識付けや防災活動の強化を図ります。また、誰もが災害時に必要な情報を得られる仕組みづくりを目指します。

建設	現況	免許を返納した高齢者の増加が予測されるとともに、生活の利便性や安全性向上が課題となっています。また美しい村の維持に向けて、景観の保全や活用も改めて村全体で考えていく必要があります。
	めざす姿	**助け合いで築く誰もが安心できる暮らし** 車を持たなくても生活できるよう、交通手段の整備を目指すとともに、生活基盤の維持による安全で暮らしやすい村づくりを進めます。「日本で最も美しい村」連合加盟自治体として景観づくりを進めます。

行財政	現況	これまでの総合振興計画では行政区ごとの地域別計画やつながりプランを策定していました。村民や各行政区が支え合いや連携により自立していくことが、村が自立することにつながります。
	めざす姿	**連携して課題に立ち向かえる自立した地域** 今後は、行政区間で連携しながら地域コミュニティによる地域づくりを進めていくため、行政区ごとに将来計画を策定します。また、村民の自立と行政に頼りすぎない暮らしを目指し、行政と村民の役割分担を明確にするとともに、村民参加により総合振興計画の実現を図ります。